

■ 修士論文要旨

移動体通信に関する国際ビジネス比較

The Cross-National Study on Mobile Telecommunication Business

神奈川大学大学院 経営学研究科
国際経営専攻 博士前期課程

孫 岩

Yan Sun

■ キーワード

通信技術、移動体通信、携帯電話、技術革新、中国、国際比較

21世紀は、急速に進展するITが広く社会・生活の中に浸透し、デジタル情報の流通が人々のあらゆる活動と不可分なものになる時代である。21世紀の社会は、情報通信が空気や水と同じようにどこでも利用でき、すべての人々の活動を支える社会である。人々の生活のパーソナル化や個性の尊重などにより、一人一人のニーズや欲求は多様化していく。21世紀の情報通信は、決まったメニューが利用者に提供されるのではなく、利用者一人ひとりにフォーカスし、カスタマイズした「個」のサービスを提供する。その一方で、オープンかつグローバルな情報通信環境を実現することが求められる。このように相反する要求を両立できる自由度をもつのがITであり、また、それだけの自由度を持つが故に、新しい情報通信は21世紀社会のもっとも重要な基盤に位置づけられるのである。そのような新しい情報通信環境を基盤とする21世紀の社会構造、そして我々の生活スタイルもまた、従来とは大きく異なるものへと変わっていくことが予想され、期待されている。もともと情報通信

は、空間を超えて人々のコミュニケーションを実現し、自由度と可能性を増やさせるものであるが、通信システムが発展すればするほど、通信端末はかえって人々をそれらの端末の前に束縛してしまうという側面がある。

移動体通信とは、通信を行なう端末のうち、片方ないし両方を移動させられる通信の総称である。携帯電話・自動車電話などが代表的なものである。しかし、移動体通信は中国においては単なる通信の総称ではなく、通信会社の一つとして用いられている。中国の電子産業は1990年代後半から急成長し、2000年秋からの世界的なIT不況のなかでも堅調な伸びを維持した。2004年第1四半期、業界全体の成長は速度を増し、輸出も大幅にふえ続け、生産と販売のつながりもさらにより方向に向かっており、経済的な成果は著しい上昇が続いている。中国においてもまた、情報通信関連技術の急速な発達は目を見張るものがある。携帯電話などの移動体通信は急激に中国国民の生活の中に入ってきている。携帯電話が中国に普及し始めた当初、携

携帯電話は贅沢品であり、公務員と外資企業でのホワイトカラー層のステイタスシンボルでもあった。しかし、携帯電話が急速に普及し、所有していることが特別ではなくなると、ユーザーは携帯電話に自分の個性を反映することを求めるようになる。本論文は以上のような中国の移動体通信の現状を精査し、さらにアメリカ、イギリス、日本、韓国の移動体通信ビジネスのソリューションと中国の移動体通信とを比較しながら、中国の移動体通信の市場を拡大する方途を探り、展望を考察するのが目的である。更に今後の方向を模索し、中国经济を牽引していく役割と問題点について論じるのが本論文のもうひとつの目的である。

本論文は3つの章に分かれている。

第1章は「中国の移動体通信の概要」である。この章は中国の移動体通信の歴史を紹介した上で中国移动体通信の現状を紹介したものである。2003年後半から2004年の前半にかけて、携帯電話市場の流行には大きな変化が訪れた。モノクロ画面からカラー画面への変化に加え、カメラ付き携帯も流行の兆しがでてきている。この章の後半では中国の携帯電話の普及と移動体通信企業の最新動向を述べている。

第2章は「移動体通信ビジネスに関するアメリカ、イギリス、日本、韓国の比較」である。この章はアメリカの移動体通信の歴史と現状の紹介からはじめ、イギリス、日本、韓国の現状を紹介したものである。アメリカは一番早く携帯が普及しはじめた国であるが、携帯電話の伸びの普及率が鈍くなってきた。イギリスでは主導的な市場シェアを占めるためのキャリア間の競争が激しいが、さまざまな影響で売上げの伸びも鈍くなってきた。日本は世界で一番早く携帯電話とインターネットを繋いだ点で特質できる。携帯電話の技術として日本は世界のリーダーであったが、韓国に抜かれたといわれている。韓国では携帯技術が急速に発展して、世界的に注目されている。この章ではこれらについて詳述している。

第3章は「中国の移動通信の将来」である。この章は中国の移動体通信サービスの特徴と次世代

携帯電話と携帯電話事業の発展動向を紹介したうえで今後の課題を分析したものである。中国は携帯端末の最大生産国であり、携帯ユーザー数も世界一である。2004年には加入者数は3億人を超えた。これからの移動体通信の発展の可能性は無限といわれることさえもあるが、このような将来像について分析した。

以上のような章構成のもと、本論文はアメリカ、イギリス、日本、韓国の移動体通信を比較しながら、中国の移動体通信のあり方について探ったものである。

中国移动体通信は中国の経済が飛躍的に発展しているに従い、市場を拡大させており、世界中から注目を集めている。その中国携帯市場成長の発展における留意点を本論文では市場拡大の可能性、端末市場の乱立、技術の導入の3点に集約し、結論部において考察した。

将来の市場展望において、急速なマーケット環境の変化と企業間競争の激しさが様々な形で話題になる中国携帯電話市場で生き抜くためには、企業は先見性を持ち、柔軟に、そしてスピーディーに、戦略性を持って行動することが何よりも重要なのである。